



みなみの風

【発行日】

令和7年3月21日

【発行者】学校長



《学校教育目標》 自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子の育成

重点目標「生き生きわくわく」～言葉を大切に、豊かな関わり・確かなつながりをととして～

令和6年度 開成南小学校卒業証書授与式

本日、本校の15回目の卒業証書授与式が挙行されました。卒業生の皆さん、そして保護者の皆様、本当におめでとうございます。

2019年度、元号が平成から令和に変わった年に、今回の卒業生である15期生は入学しました。日々、学校生活で充実した毎日を過ごし、1年生がもうすぐ終わろうとする3月に、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、急に登校することができなくなりました。学校も初めてのことで、どう対応すればよいかに悩み、それまでの当たり前が当たり前でなくなったことに対する戸惑いが数多くあったことでしょう。世に中もすっかり変わってしまったことを今でも覚えています(私は当時、箱根町立箱根の森小学校勤務でした)。

以後も続く、数々の苦難を乗り越え今日があるのは、保護者の方々はもちろん、地域の方々の多大なる支援のおかげであると思います。改めて感謝の心を持ち、次のステージに羽ばたいてください。

ご卒業、おめでとうございます！未来を切り拓いていってください。

日本科学未来館＆国会議事堂への校外学習【6年】(1月31日)

1月末なので、だいぶ前のことになりますが、6年生が日本科学未来館と国会議事堂へ校外学習に行きました。社会科の学びにおいて、以前は3学期に学んでいた公民分野(政治や福祉など)ですが、教科書の単元配列が変わり、現在は年度当初に学ぶこととなっています。よって、かなり以前の学びの復習になりましたが、それでも国会議事堂内に入るという貴重な経験ができたと思います。

国会議事堂は、ご承知のとおり国の唯一の立法機関であり、実は自分たちの明日以降の生活と直結している場所です。驚きとあこがれだけではなく、その実務内容を改めて学ぶ機会となったのなら嬉しく思います。当日は、朝早い集合にもかかわらず、子どもたちのために様々なご準備をいただき、ありがとうございました。この校外学習をもって、6年生としての全ての校外学習を終えたことを報告させていただきます。



「子育てアラカルト⑧ ～SNS問題は…～」

県レベルや町レベルで教職員を対象とした児童・生徒指導に関する研修会や情報交換会は、頻繁に実施されており、管理職や担当教員が出席し、学校全体で情報共有しているところです。

現在、話題となる内容としては、SNS利用に係ることが多くなる傾向にあります。本校においても情報モラルについては、日々の学びの中で指導しています。今のところ、本校には大きな課題として表面化されている案件はそう多くはありませんが、見えないところで実は根深い課題が潜んでいるかもしれないと思うと、油断はできません。今後、PTA主催の家庭教育学級等で情報モラルに関する研修を継続して扱っていただき、学校と家庭との連携を図っていくことで、未然防止や早急な課題解決が図れる体制づくりを構築していく必要があると考えます。

さて、保護者の方々は、お子さんのSNS問題を考えたときに、何を思い浮かべるでしょうか。「嫌な思いをする」「怖い思いをする」など、被害を受けることをイメージするかもしれません。SNSは、人と人とのつながりなので、お子さんが一方的に被害者になるとは限りません。つまり、「嫌な思いを誰かにさせる」「怖い思いを誰かにさせる」という加害の立場になることもあり得ることを想定しておく必要があるかもしれません。便利なものこそ、その使い方を定期的に振り返る機会を設ける家庭・地域・学校でありたいものです。

寄木細工体験（４年） ～繊細な技術に驚く～

４年生の担任の先生方からの要望で、社会科の学びの発展として、「県内の伝統工芸を子どもたちが体験できる場を設定したい」という話がありました。もちろん、開成町にもありますが、近隣で有名な箱根寄木細工を私から紹介し、体験することとなりました。

小田原市早川で木工所を営む方にお願ひし実現したのですが、４年生の子どもたちは講師の方の話を食い入るように聴き、自分なりの作品を完成させました。最初は難しそうと感じていた子が、オリジナルのコースターの出来栄に、とても満足そうな表情をしていたのが印象的です。

今回は、箱根町教育委員会、箱根町役場観光課及び箱根町郷土資料館の方々のご支援によるものでした。木工所からお越しいただいた講師の方はもちろんのこと、多くの方々に感謝いたします。そして、材料費等で保護者の方々にはご負担をおかけし、申し訳ありませんでした。ご協力に感謝いたします。



幼稚園との交流会（５年） ～最上級生になる自覚～

学校は、今年度のまとめと同時に次年度の準備を始めています。その中でも、より計画的に位置付けているのが新１年生を迎える体制づくりになります。今年度は、現１年生との交流にとどまらず、現５年生との交流も行いました。

新１年生にとっては、新しい環境に飛び込む４月というのは何かと不安になりがちです。もちろん、担任を中心に教職員のサポートは欠かせないところですが、何より最上級生である６年生の存在は最も大きいのはいうまでもありません。来る４月にその立場になる５年生は、見事に交流会をやり遂げたことを誇りに思います。

幼稚園では、年長として園をリードしてきた経験があるのに、小学校に入ると一番下の学年になり、どうしても支援をしすぎる傾向があると言われることがあります。それは、幼稚園教育を小学校の教職員が把握しきれていないことが一因であると思います。今年度はほぼすべての教職員が幼稚園での学びや遊びの様子を見学に行きました。見学から帰ってきた後、「あんなにできることが多いとは・・・」「小学校では、もっと子どもたちを信用してもよさそう・・・」などの声が上がりました。

幼小の連携は、「スタートカリキュラム」や「架け橋プログラム」といわれるものを軸に、さらに充実していけるよう努めていきます。そして、安全には最大限配慮しつつ、子どもたちが主体性をもってできることについては、チャレンジさせていきたいと思っています。



総合的な学習の時間のまとめ ～学びをアウトプット～

学んだことを知識・技能としてインプットすることは大切であり、テストでそれを再生することも大きな価値があります。しかしながら、生成AIがより進化し、当たり前のように普及しているPCやスマホにより、ただ考えずに再生するのであれば、それはこれまで以上にAIが担うことになるのかもしれない。

現在の義務教育では、「思考力、判断力、表現力等」の育成、そして「学びに向かう力、人間性等」の涵養により重点が置かれています。それは、アウトプットにより磨かれることが多くあります。

５年生のあるクラスでは、弥一芋を使ったクッキーを町の特産にすべく、地域の方のご支援のもと、数回にわたり試行を重ね、町長さんや教育長さんをお招きし、最終試作品を試食していただきました。これまでの学びの軌跡やクッキーに対する思いをアウトプットしました。



３年生のあるクラスでは、町のキャラクターに視点を当て、自分たちの思いを実現させようと商工会の方々をはじめ、町当局の方々とも連携し、シールの商品化につなげました。

そのシールは、３月２０日に開催された「かいせい町民フェスタ」にてアピールし、ここでも自分たちの思いをアウトプットすることができました。

実際には多くの部分で、事前に担任が関係各所との調整が必要となるのですが、子どもたちは各教科等で学んだことを「生きてはたらく力」としてきたことに充実感を得たことと思います。